

図	番号	遺構	注記	種別	石材	特徴	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
7	1	不明	なし	ナイフ形石器	黒曜石	打面形状：多 打面調整：○ 頭部調整：○ 打角：125 背面構成：I、IV 末端形状：F 折面部位：L	3.8	2.3	1.0	6.8	
7	2	混入	007-6001・6002	RF	デイサイト	背面構成：I、II、C 末端形状：F 折面部位：M	3.9	2.5	1.9	14.8	
7	3	混入	グリッドVS-6001	スクレイパー	デイサイト・頁岩	打面形状：平 打面調整：× 頭部調整：○ 打角：115 背面構成：I、II、III、IV 末端形状：F	10.2	4.9	2.4	78.5	
7	4	混入	007-6001・6002	RF	デイサイト・チャート	打面形状：平 打面調整：× 頭部調整：○ 打角：110 背面構成：I 末端形状：F	2.0	3.1	1.4	7.6	
8	1	混入	グリッドUS-6001	スクレイパー	流紋岩・頁岩	打面形状：平 打面調整：× 頭部調整：○ 打角：105 背面構成：I、IV、C 末端形状：F	10.8	5.5	1.7	42.8	
8	2	下層	1tr0002 [81.01.25]	UF	黒曜石	背面構成：III 末端形状：F	3.8	2.0	1.0	5.4	
8	3	混入	072-6001	RF	珪質頁岩・チャート	打面形状：平 打面調整：× 頭部調整：○ 打角：105 背面構成：I 末端形状：F 折面部位：R	6.2	4.6	1.3	19.3	
8	4	混入	288	RF	流紋岩	打面形状：平 打面調整：× 頭部調整：○ 打角：135 背面構成：I、II、C 末端形状：H	5.0	3.4	1.1	16.3	
8	5	混入	012-6001	RF	デイサイト	打面形状：－ 打面調整：－ 頭部調整：－ 背面構成：II 折面部位：R	2.5	1.6	0.4	1.0	
9	1	混入	なし	石核	チャート		3.9	3.8	3.5	56.3	
9	2	上層	上層	石核	流紋岩		5.4	4.7	2.5	57.3	
10	1A	混入	288主体部周辺	剥片	流紋岩	打面形状：多 打面調整：○ 頭部調整：○ 打角：125 背面構成：I、C 末端形状：F	4.0	4.5	1.5	21.7	1Bと接合
10	1B	混入	072-6002	剥片	流紋岩	打面形状：多 打面調整：○ 頭部調整：○ 打角：125 背面構成：II、C 末端形状：F	4.5	4.0	1.3	21.8	1Aと接合
11	1A	混入	58	剥片	堇青石ホルンフェルス	打面形状：線 打面調整：× 頭部調整：× 打角：80 背面構成：C	3.0	4.7	1.7	26.3	1Bと接合
11	1B	混入	051-6001	両極剥片	堇青石ホルンフェルス	打面形状：線 打面調整：× 頭部調整：× 打角：70 背面構成：C	4.6	4.0	1.7	26.3	1Aと接合
11	2	下層	1tr.0001	剥片	無斑晶質ガラス質安山岩	打面形状：平 打面調整：× 頭部調整：○ 打角：120 背面構成：I、C 折面部位：B、L	4.1	2.9	1.2	21.4	
11	3	下層	1tr.0006	剥片	含角閃石流紋岩	打面形状：多 打面調整：× 頭部調整：○ 打角：105 背面構成：I、II 末端形状：H	6.3	3.0	1.1	17.7	
20	33	遺構?	012-2001	砥石・凹石?	軽石	底面がやや凹んだ饅頭形を呈する 全面が磨れている	8.4	7.4	5.3	49.4	
24	20	一括	007-6004	砥石	軽石	全面が磨れて槌状研磨痕がある 多面的である	3.7	3.4	2.3	3.9	
27	9	一括	015-6001	砥石	凝灰岩	曲線的な側縁が破断面なのを除いて 平滑である	5.4	3.6	2.1	31.3	
43	10	一括	026-6001	砥石片?	輝緑岩		4.7	4.6	2.6	61.5	
47	24	遺構	029-1008	砥石	軽石（空隙は少な めで礫が混じる）	ほぼ全面磨れている 広面には長軸方向に槌状研磨痕が 見られる	9.4	4.8	4.4	26.9	
47	25	一括	029-6004	砥石?	軽石	凹面をなす広面がある	5.2	3.7	3.5	10.0	
47	26	一括	029-6004	砥石	軽石	全面磨れており、多面体を呈する 槌状研磨痕が認められる	5.3	3.8	3.3	11.4	
49	24	一括	030-6002	砥石	砂岩	両広面と2側面が磨れている	5.8	4.7	1.8	60.8	
51	26	一括	031-6004	砥石片	凝灰岩	平滑な面を3面に認める	3.6	3.3	2.5	19.3	
56	27	遺構	036-1001	砥石	砂岩	広面にある剥離痕以外はほぼ全面 が磨れている 利器による線状痕が見られる 長軸の1端は扁平片刃状に研磨に使 われている	7.4	6.3	0.9	57.7	
57	2	一括	037-6002	砥石?	砂岩	側縁の一部と破断面を除き、使用 により平滑である	4.5	2.5	0.5	7.7	
62	9	一括	044-6001	砥石	凝灰岩	広面と2側面は磨れているが、全く の平面はない	7.2	6.1	2.0	79.0	
66	10	一括	047-6001	砥石	軽石	平面は少ないが、槌状・線状研磨 痕が目立つ C字の断面形を呈する	7.6	5.9	5.3	32.8	
66	39	一括	073-6002	砥石?	軽石	全面が磨れている	7.4	5.6	3.5	21.0	
69	29	一括	051一括	砥石?	スコリア	多面的である	4.5	3.8	2.4	32.3	
82	14	一括	076一括	砥石	軽石（空隙が多 い）	両広面は磨れているが他は風化と 区別が難しい	8.8	4.4	3.0	13.3	

図	番号	遺構	注記	種別	石材	特徴	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
85	17	一括	080-6002	砥石	凝灰岩	両側面の大部分と小口の1端が破断面を呈しており、他の面は研磨に使われている	9.7	6.7	3.2	162.4	
85	18	一括	080-6001	砥石	凝灰岩	2片が接合 両小口と1側面が破断面で他は強い研磨を受けている	7.7	4.8	3.5	76.7	
85	19	一括	080-6001	砥石	凝灰岩	6面とも磨られているが、両広面が最も平滑である	5.2	3.4	1.9	37.7	
95	14	一括	201-6002	砥石	軽石（貝類による穿孔あり）	径1.5cmほどの貝棲息痕がある 全面が平面的に使われ、多面体的になっている	6.0	5.2	5.1	19.5	
100	12	混入	202-1003	砥石?	軽石	破断面以外は磨れている	6.2	3.3	3.8	9.1	
133	1	混入	288NW-1009	砥石	凝灰岩	樋状研磨痕・凹面が多い 2面が破断面	5.4	3.0	2.5	40.7	
133	2	混入	288主体部フクド	砥石片?	凝灰岩	礫面が砥石の磨面状に平滑である	2.6	2.0	0.9	3.8	砥石片か
133	3	混入	288-6005	砥石	凝灰岩	小口の一端が山形に破断している 他は凹面になる程磨られる	5.2	4.6	1.5	32.2	
133	4	混入	288SW溝6002	砥石	軽石（貝類による穿孔あり）	全面が磨れている 径1.5cmの貝巢穴痕がある	4.7	3.9	3.1	10.0	
133	5	混入	288-6001	砥石?	軽石（貝類による穿孔あり）	全面が磨れている	3.8	3.2	3.1	5.1	
133	6	混入	288一括	砥石	軽石	全面磨れており、利器を研いだ線状痕がある	5.5	3.7	3.6	18.7	弥生時代以降か
133	7	不明	なし	砥石?	軽石（貝類による穿孔があり、空隙が目立つ）	面的に磨れている	6.0	4.5	3.1	11.7	
133	8	混入	288-6004	砥石	軽石	広面が磨れており、樋状の研磨痕が見られる	5.7	5.3	2.6	10.9	
133	9	混入	288-6014	砥石	軽石（混入粒は目立たず、空隙も少なめ）	全面磨れ、一部に利器を研いだ線状痕がある	5.7	5.6	4.3	24.4	弥生時代以降か
137	1	混入	288-6001	砥石?	軽石（粒は目立たない）	小口面は平らに磨れている	6.0	3.3	1.6	4.9	
137	2	不明	289SW-6001	転用砥石?（石造物片?）	デイスайт	曲面部につづく側縁が磨れ気味	7.2	3.8	1.8	101.0	
137	3	混入	231-2001	剥片	流紋岩	打面形状：多 打面調整：○ 頭部調整：○ 打角：110 背面構成：I、C 末端形状：F	7.1	2.9	1.1	17.4	剥離面の反対に平滑な礫面が残る砥石片か
137	4	遺構	014-2001	置き砥石	砂岩	ほとんどの部分が磨れている 利器を研磨したと見られる線状痕が認められる また、広面にある円形凹みは棒状品の先端を丸めることを意図した研磨の痕跡と見られる	18.1	13.4	6.4	1852.3	137図5石臼と近接して検出された289号墓に関係する可能性がある
137	5	遺構	014-2002	磨製板状品（転用石臼か）	輝石安山岩	広面は表裏ともよく平に磨れている 広面的一方には敲打・圧擦による楕円形の凹みがあり、その周囲にも敲打・圧擦痕が広がる 側面は破断面だが若干磨れている	23.5	21.3	6.2	4246	14号竪穴住居覆土に伴うが、289号墓に関係する可能性が考えられる
153	1	混入	021「81.07」	石鏃	玉髄		2.7	1.6	0.5	1.4	
153	2	混入	007-北壁「81.05.02」	石鏃	頁岩		2.5	1.6	0.4	1.0	
153	3	不明	なし	石鏃	黒曜石		2.0	1.6	0.5	1.0	
153	4	混入	288主体部フクド	石刃	流紋岩	打面形状：平 打面調整：× 頭部調整：× 打角：107 背面構成：I、III 折面部位：B	4.6	2.4	1.0	7.2	
153	5	下層	070テント西トレンチ	UF	珪質頁岩	打面形状：平 打面調整：× 頭部調整：○ 打角：120 背面構成：I、IV 末端形状：F	5.1	1.9	1.3	11.2	主要剥離面の反対に礫面が残る
153	6	混入	007-6004	打製石器	砂岩		6.3	4.4	2.2	71.8	弥生時代遺物か
153	7	混入	288NE-6001	RF	ホルンフェルス		7.7	5.0	1.6	70.3	
153	8	混入	025-2001	礫器	チャート		5.2	4.4	3.2	102.8	
153	9	混入	288-6006	敲打器?	チャート	1端に加撃痕がある	3.3	3.2	2.0	19.7	
153	10	混入	テント脇トレンチ「拡張部分中央黒色土層」（住居址フクド上層）	火打石?	玉髄	一面は未調整で風化気味である	1.9	1.5	1.3	4.1	
153	11	不明	なし	剥片	黒曜石	背面構成：IV 末端形状：H 折面部位：H、R、L	2.8	1.3	0.8	2.2	
153	12	?	なし	剥片	黒曜石	背面構成：I 末端形状：H 折面部位：H、R	3.0	1.6	0.6	2.2	直線的な辺があり、折損したように見える
153	13	不明	なし	石鏃未製品	無斑晶質ガラス質安山岩	一端が折損している	1.8	1.5	0.5	1.5	
153	14	混入	231-2001	剥片	黒曜石（白色粒が目立つ）	打面形状：多 打面調整：○ 頭部調整：× 打角：100 背面構成：C 末端形状：H	2.5	1.6	0.7	2.2	剥離面反対の風化が進んでいる

図	番号	遺構	注記	種別	石材	特徴	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
153	15	混入	202南西部	剥片	玉髄	打面形状：平 打面調整：× 頭部調整：○ 打角：125 背面構成：I、III 末端形状：F	2.7	1.9	0.7	2.6	
153	16	混入	288-6002	剥片	黒曜石	打面形状：線 打面調整：× 頭部調整：× 背面構成：III、IV 末端形状：F	2.7	1.7	1.0	4.0	
153	17	混入	231-6001	UF	黒曜石	打面形状：平 打面調整：× 頭部調整：× 打角：125 背面構成：I、II、IV 末端形状：F	2.5	1.7	0.5	1.4	
153	18	不明	なし	剥片	玉髄	打面形状：平 打面調整：× 頭部調整：× 打角：120 背面構成：I、II、C 末端形状：H	3.0	1.9	1.4	5.2	半透明結晶部に白色部が面的に貫入した部分で剥離する
153	19	混入	288-6005	剥片	珪質頁岩	打面形状：平 打面調整：× 頭部調整：○ 打角：120 背面構成：I、C 末端形状：F	3.0	2.2	0.7	5.1	剥離面反対に平滑な礫面が残る
153	20	混入	231-2001	RF	黒曜石	背面構成：I 末端形状：H 折面部位：H	2.8	1.3	0.7	2.1	
153	21	不明	なし	RF	チャート	打面形状：C 打面調整：× 頭部調整：× 打角：85 背面構成：I、IV 末端形状：F	4.0	3.0	1.5	18.4	
153	22	下層	43	剥片	チャート	背面構成：S 末端形状：F 折面部位：H剥離面の裏面は石理に沿って割れ、平面を呈する	3.6	2.2	0.8	6.4	
153	23	一括	012-6003	礫	瑪瑙	長軸に石理がある	5.0	2.2	2.1	28.9	
153	24	下層	49	礫片	チャート	打面形状：C 打面調整：× 頭部調整：× 打角：125 背面構成：C 折面部位：B	3.4	1.8	1.6	9.4	
153	25	混入	231-2001	剥片?	デイサイト	打面形状：平 打面調整：× 頭部調整：× 打角：115 背面構成：I、C 末端形状：F	7.5	2.8	1.5	17.3	表面の風化が進んでいる
153	26	混入	288SW溝6004	RF	瑪瑙	打面形状：C 打面調整：× 頭部調整：× 打角：110 背面構成：II、III	4.1	2.6	1.9	18.2	半透明結晶部に白色部が面的に貫入した部分で剥離する
153	27	不明	71	礫片	デイサイト		3.5	2.5	1.1	8.4	
153	28	下層	4	碎片	流紋岩	打面形状：平 打面調整：× 頭部調整：○ 打角：105 背面構成：I、C 折面部位：B	3.9	2.2	1.0	9.2	
153	28'	下層	55	碎片	流紋岩		1.3	1.3	0.2	0.4	28と同一
153	28"	下層	なし	碎片	流紋岩		1.3	0.7	0.2	0.2	28と同一
154	1	混入	029-6004	敲石	ホルンフェルス		12.3	7.2	4.3	530.0	
154	2	不明	なし	棒状磨製品	火山礫凝灰岩	先端に敲打痕がある 手元側で破断する	12.2	4.0	3.2	226.0	
154	3	一括	201-6013	棒状品	砂岩	元が破断している 一面が平滑な他は敲打痕（成形?）で埋まる	9.7	3.9	3.2	145.4	
154	4	不明	「不明」	敲石	砂岩	頂部に敲打痕がある 破断面も若干磨れている	9.0	7.4	2.8	207.2	
154	5	不明	「不明」	磨石（敲石）	砂岩	端部に敲打痕がある 反対は破断面	6.5	5.0	2.5	94.0	
154	6	不明	なし	敲石	輝緑岩	小口面に敲打痕がある	4.9	4.4	3.5	90.3	
154	7	一括	044-6001	磨製品片	火山礫凝灰岩	側面は多くが加撃で欠損する 図左側面は平面が遺存している	8.4	5.7	3.5	231.1	
154	8	不明	なし	敲石	石英斑岩	長軸両端に敲打痕	5.6	3.9	2.5	68.3	
154	9	下層	No.23	礫（素材?）	チャート	1端に加撃痕がある	5.0	4.3	2.6	69.4	
154	10	下層	No.26	礫	チャート	1端に加撃痕がある	5.0	4.4	3.3	104.0	
154	11	混入	027-1002	磨製石斧片	砂岩	刃部は平滑であるが、側縁の研磨は甘い	7.0	6.7	4.2	183.5	
154	12	不明	なし	礫片（敲石?）	チャート	1端に加撃剥離痕、反対端に敲打痕がある	4.8	4.6	2.8	74.2	
154	13	一括	068-6001	磨石	ひん岩	側縁に敲打・圧擦痕がある	8.4	5.4	2.6	146.3	
154	14	不明	なし	磨石	輝石安山岩	被熱のためか黒変する箇所がある	5.9	5.8	3.8	140.0	
154	15	混入	一括	敲石	砂岩	洋梨形の下面に敲打痕が広がる 裏の剥離面は風化・磨滅している	9.6	6.6	3.8	279.3	
154	16	不明	070-000-2001	磨石	砂岩ホルンフェルス	一方の長辺で破断する 短辺の片側に敲打・圧擦痕がある	7.4	6.0	1.6	127.9	
154	17	一括	011-6001	磨製品片	砂岩	扁平に剥落している 調整部は平滑だが、大きく剥離している	7.6	6.5	2.0	118.0	
154	18	混入?	025-2001	磨石	石英斑岩	広面中央部と側縁の一部に敲打・圧擦痕がある	8.4	5.2	5.0	258.3	
154	19	混入?	012-1005	礫	堇青石ホルンフェルス	目立った使用痕はない	9.9	5.7	4.3	349.9	
155	1	不明	なし	磨石	変質安山岩	側縁に磨面がある	7.5	5.5	3.0	171.4	
155	2	遺構	028-1001	磨石	ホルンフェルス	長側縁の1面がよく磨れている	8.2	3.9	2.2	97.3	
155	3	一括	072-6001	磨石	砂岩	広面がよく磨れており、側縁を中心に敲打・圧擦痕がある	8.6	3.7	2.6	106.1	
155	4	混入	016一括	凹石	砂岩	2面の中央部に摩擦・敲打痕がある	10.1	6.3	4.6	386.9	

図	番号	遺構	注記	種別	石材	特徴	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
155	5	混入?	012-2002	敲石・凹石	石英斑岩	広面の表裏と側縁に敲打・圧擦痕が認められる	12.7	9.7	5.3	879.8	
155	6	不明	070-000	砥石	砂岩	元の破断面以外は平滑	6.6	4.0	2.1	73.2	
155	7	不明	なし	磨石	輝石安山岩	全面が磨れている	6.5	4.7	2.6	106.7	
155	8	一括	201-6009	敲石	砂岩	長軸の一端に大きく敲打痕がある 側縁にも敲打・圧擦痕がある	8.5	5.9	2.7	200.2	
155	9	一括	014-6002	敲石（磨製石斧?）	砂岩	先端に敲打痕が集中する	7.4	5.9	3.5	160.2	
155	10	不明	なし	磨石	安山岩	全面が磨れている	6.8	5.9	2.9	131.7	
155	11	一括	028-6003	磨石	砂岩	長軸端と平面の一部に若干の敲打・圧擦痕がある	5.7	5.4	2.6	118.2	
155	12	混入?	012-2002	凹石・敲石	輝緑岩	楕円形を呈し平滑な広面の表裏に2.5cm程度の凹みがある 側縁は全周が敲打・圧擦痕を持つ	10.4	7.9	3.4	488.3	
155	13	遺構	042-1003	敲石	砂岩	広面と側縁に敲打・圧擦痕が認められる	11.9	5.8	4.9	317.9	
155	14	下層	No.25	礫片	チャート	石理で直線的に破断する	4.2	3.8	3.2	58.1	
155	15	一括	031-6002	礫片	含玉髄流紋岩		6.1	4.3	4.3	125.9	
155	16	混入	042-6001	石皿片	輝石安山岩	扇形に割れており、曲線部の一部と破断面を除いて平滑である 元の中心に向かって厚みを減じる	7.9	8.3	3.1	221.7	
156	1	不明	No.01	磨製品片	凝灰岩	曲面部が平滑になっている	2.6	2.5	1.1	7.9	
156	2	一括	051-6001	剥片	瑪瑙	打面形状：C 打面調整：× 頭部調整：× 打角：95 背面構成：C 末端形状：F	3.7	3.2	1.5	20.9	主要剥離面は石理に沿っている裏に円礫面を残す
156	3	一括	076一括	磨石・凹石	砂岩	広面は平滑で、敲打痕がある	6.2	4.1	3.6	136.8	
156	4	下層	No.28	石核	玄武岩		6.1	3.9	2.9	79.3	
156	5	不明	「不明」	砥石	流紋岩	元側に破断面がある	7.3	2.1	1.5	28.6	
156	6	混入	212-6001	砥石	流紋岩	ハケメ状の条線の彫られた面とその裏のかなり平滑な面がある 両小口面は破断している	4.1	2.7	1.1	17.2	
156	7	グリッド	SP-6001	砥石	輝石安山岩	長軸方向に研磨痕が見える 一部にヘラケズリ状の単位も認められる	12.7	4.5	2.8	125.6	弥生時代以降か
156	8	下層	11	焼割礫片	砂岩		4.9	2.9	0.8	9.6	
156	9	ソフトローム前後層?	上層・No.29・02・42	焼割礫	流紋岩	4片が接合	6.6	4.4	3.0	95.9	10と同一個体か
156	10	ソフトローム前後層?	上層・31・52	焼割礫	流紋岩	3片が接合	4.9	4.3	3.0	58.8	
156	11	一括	040-6001	磨石	砂岩	摩擦により両広面が平滑である 広面の一方は明瞭な平面である 一部に敲打・圧擦痕が認められる	11.2	8.2	4.2	479.4	
156	12	遺構	046-1003	磨石・敲石	輝石安山岩	広い2面がよく磨れており、一方に径2cmほどの円形凹みがある ところどころに敲打・圧擦痕が見られる	16.4	9.9	9.8	2472	
156	13	一括	047-6001	凹石	軽石（貝類による穿孔がある）	底面が大きく窪む饅頭形を呈する 全面が磨れている	9.7	8.3	5.3	45.9	